

# 糖尿病患者の血糖コントロール目標達成率【入院】

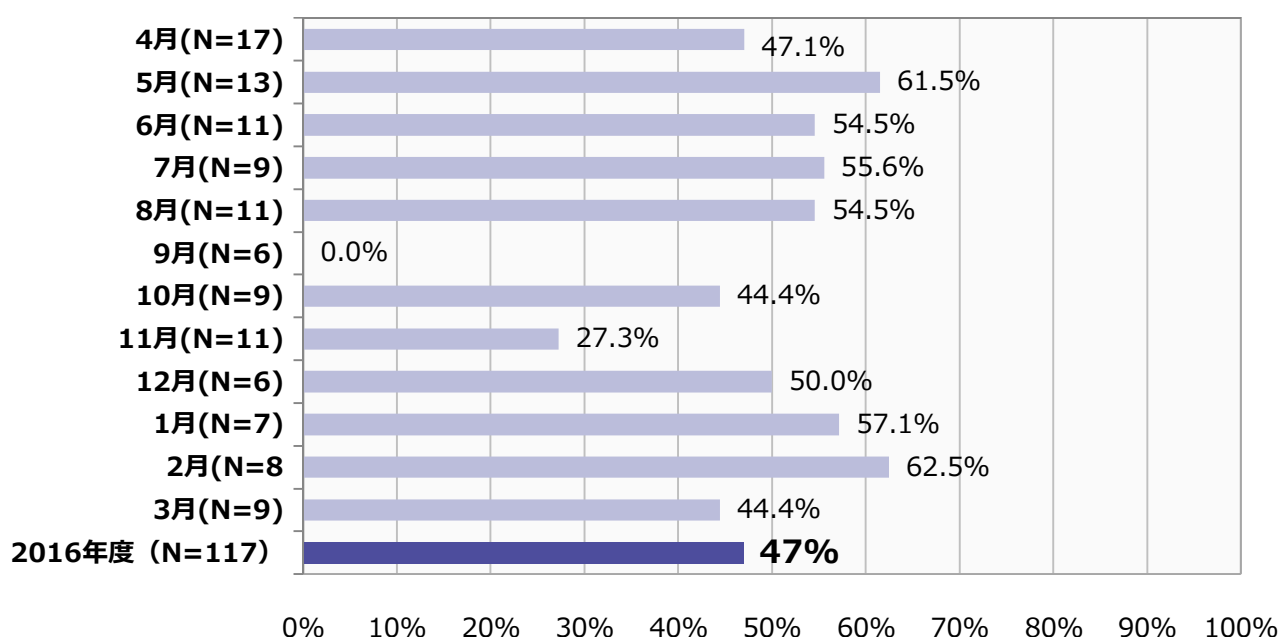
糖尿病患者の治療目標は、血糖の適正範囲内へのコントロールにより、細小血管合併症および大血管合併症の発症、進展を抑制し、健常者と同等の健康寿命を確保することにあります。

したがって、糖尿病治療に求められるのは、大きく血糖を下げるのではなく、適正範囲に血糖を到達させること、「Treat to target」です。

現在推奨されている血糖コントロールの目標値は個別の背景で考慮する必要があるものの、一般的にはHbA1c 7%未満、血糖値としては空腹時血糖130mg/dl未満、食後2時間血糖180mg/dl未満です。

これを低血糖をおこすことなく達成するのが、入院治療における治療目標となります。

HbA1cは測定時から2, 3ヶ月前までの平均血糖を反映するため、入院治療の効果判定には不適切であり、すべての時間帯において80~180mg/dlの範囲での血糖推移にコントロールすることを入院治療での血糖コントロール目標と設定、その達成率をQIとしました。



## 当院値の定義・算出方法

**分子：** 退院前日の毎食前後、就寝前血糖値がすべて目標範囲内の血糖（80~180mg/dl）に達した患者数

**分母：** 糖尿病教育入院患者数

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

## 結果の考察および改善策について

本指標による入院治療の評価を行うのは今年度が初めてでした。糖尿病教育入院を行った患者の47%が12日間の入院期間で理想的な血糖推移を得られたという結果でした。

達成率が低いようにも見えるが、教育入院患者の中には高齢者で治療目標を緩和している症例や、中長期的な血糖コントロールを目標として退院時点で急激に理想的な血糖値まで低下させないことが好ましい症例も少なからずいること、毎食前後、就寝前の7ポイントすべてで目標血糖を満たすという厳しい基準を設けたことを考慮すると、決して低い達成率ではないと考えられます。

さらなる改善のため、個々の症例について治療経過を振り返り、よりよい薬剤選択を行うよう診療の制度を向上させたいと考えます。